

事業報告 「講演会 イタリア発 世界の中の日本という国」

去る6月26日、市役所清水庁舎「ふれあいホール」にて、サッカーのトップチーム、イタリアACミランでメディカルトレーナーとして活躍されている静岡市出身の遠藤友則氏に国際交流、多文化共生をテーマに講演をしていただきました。聴講者のお一人に、その感想を寄せて頂きました。

富士山が見える静岡市清水区三保に住んで11年になる。わが家と目と鼻の先にある「三保の松原」は、ユネスコの世界文化遺産（構成資産、2013年6月登録）だ。私は1941年生まれ、「戦中派」カナ。いまはカミさんと二人暮らし。MLB（米大リーグ）の長年のファンのあと、サッカーファンになった。海外で活躍する選手を追い、テレビで視聴するようになったのが始まりだ。

先日、清水区役所ホールであったACミラン・メディカルトレーナーの遠藤友則さん（56）の講演をカミさんと聴きに行った。暗くした会場、スクリーン横の壇上にスライドを操る遠藤さん本人。講演はつぎつぎ映し出されるスライドとともにぐいぐい進む。『ベッカム（英）、ロナウジーニョ（伯）、カカ（伯）。そうそうたる選手との写真が映されると、約100人の聴衆から感嘆の声が起きた』（7月1日付、朝日新聞静岡版の記事から）。遠藤さんは清水東高FWのとき左ひざの前十字靭帯を損傷、選手生活を断念せざるをえなくなった。その後進学、夜間の鍼灸専門学校にも通い理学療法の道へ。詳しい経緯ははぶくが、ACミラン（イタリア）のメディカルトレーナーを18年、しかも1年ごとの契約。まさしく世界の一流選手から信頼を得るまでの努力や工夫、1男3女のいる家庭ぐるみのイタリア生活の一部始終が講演のなかみだった。

私が最も感心したのは、ご長男が洗礼を受けると決めたときの一家の対応だ。遠藤姓にクリスチャンネームが加わることに。日本人の親として、驚かない人は稀だろう。一家は自然体でのぞんだようだ。また、外国での生活は子どもの方が早く適応、親は子どもの通訳でどう対処したらよいか知ったという。プロとしての仕事ぶりもさながら、「1年契約」の父のもとで、いろいろあったのだろうが無事に乗り切ってきたみなさん。

最後に「出会い」と謙遜した遠藤さんだが、「戦中派」の私が感じるのは、まだまだ日本は偏見の強い社会であること。遠藤さん一家が体で感じた外国での暮らしの良し悪し。これからの生活でも、そうした「自然体」が活かされるよう願わずにはいられない。また、老人にも「糧」となるような講演を聴きたい。

（文 ミヤクラ次郎・ペンネーム）



お知らせ 「在外日本語学習者の訪日事業助成金」を交付します

静岡市国際交流協会では、日本に関心を持つ在外日本語学習者に日本文化や静岡市について理解を深めてもらうことを目的に、「在外日本語学習者の訪日事業助成金交付要綱」を制定しました。活動の拠点が日本国外にある、大学、短大、専門学校、高等学校または日本語学校等に在籍して日本語を学習する1団体5名以上で構成される団体に助成金を交付します。

●助成対象事業

静岡市内滞在中に行う、日本語教育、ホームステイ、日本文化体験、芸術・スポーツ等を通じた国際交流活動など

●助成対象経費

市内の移動にかかる交通費、文化施設や観光施設等の視察にかかる経費、記念品購入費、一泊以上ホームステイを行う際のホストファミリーに支払う謝礼、コーディネーター協力料

●助成額

訪問する青年1人につき1万円とし、当該青少の人数により算出する。ただし、1団体へ交付する助成金の上限額は、1回の申請につき12万円とする。



〈申込方法〉

日本到着日から起算して30日前までに、在外日本語学習者の訪日事業助成金交付助成金交付申請書（第1号様式）に、次の書類を添えてお申し込みください。

〈添付書類〉

- ▶ 詳しい旅程を含む事業計画書（様式第2号）
- ▶ 参加予定者の名簿（様式第3号）
- ▶ 収支予算書（様式第4号）

詳しくは在外日本語学習者の訪日事業助成金交付助成金交付要綱をご覧ください。

